

強者の戦略

こんにちは、日本史の岡上です。台風に始まり大雨に終わるお盆の時期も過ぎ、夏期もいよいよ後半戦です。大手予備校の冠模試なども受験して、今の力、これからの課題などもはっきりしてきた頃ではないでしょうか。

さて、第 23 回となる今回は 2014 年の東大日本史の第 2 問を取り上げてお話をしていきたいと思います。さあ、1 週間、しっかり問題を考えてみてください。

【2014 年度 東京大学 文科前期 第 2 問】

次の(1)～(4)の文章を読んで、下記の設問に答えなさい。

- (1) 応仁の乱以前、遠国を除き、守護は原則として在京し、複数国の守護を兼ねる家では、守護代も在京することが多かった。乱後には、ほぼ恒常的に在京した守護は細川氏だけであった。
- (2) 1463 年に没したある武士は、京都に在住し、五山の禅僧や中下級の公家と日常的に交流するとともに、立花の名手池坊専慶に庇護を加えていた。
- (3) 応仁の乱以前に京都で活躍し、七賢と称された連歌の名手には、山名氏の家臣など 3 人の武士が含まれていた。
- (4) 応仁の乱以後、宗祇は、朝倉氏の越前一乗谷、上杉氏の越後府中、大内氏の周防山口などを訪れ、連歌の指導や古典の講義を行った。

設 問

応仁の乱は、中央の文化が地方に伝播する契機になったが、そのなかで武士の果たした役割はどのようなものであったか。乱の前後における武士と都市との関わりの変化に留意しながら、5 行以内で述べなさい。